新コーナー登場！

信毎こども新聞

信毎こども新聞は、4月から新しいメニューがもりだくさん。そのいくつかをしょうかいします。

毎月テーマを決めて、みんなから寄せられた意見をしょうかいする「聞いてよ!! ぼくのわたしのキモチ」は、タイトルが「キミはどっち？」になり、○か×か、みんなの意見をまとめます。

初回テーマは「早起き」。早起きが得意か苦手か、好きかきらいかを寄せてもらっています。

「キミはどっち？」に採用された人には、なーのちゃんグッズをプレゼントします。

これからいろいろなテーマで募集します。みんな、参加よろしく！

麻衣子さんのファッションアドバイス

ニコ☆プチのスタイリストとしても活躍している、おなじみの青木麻衣子さんの新しい連載です。

今度は、みんなが応募してくれた写真に、青木さんが実際にアドバイスしてくれます。「どんな組み合わせがいいかな？」「色づかいはどうすれば…」と悩んだら、麻衣子さんのファッションアドバイスを受けてみましょう。

ファッションアドバイスは、毎月第2土曜日です。たくさんの応募待っています。

チャレンジクッキング

お待ちかね、みんなのアンケートでも希望が多かった料理の連載が始まります。

最初は「お菓子編」。若手パティシエの上野実里菜さん(23)が、お菓子作りのポイントを教えてくれます。上野さんは上田市出身で、現在は新潟市の「にいがた製菓・調理師専門学校えぷろん」に勤めています。2011年の技能五輪国際大会ワールドスキルズ2011（ロンドン開催）洋菓子部門で優勝、2012年の洋菓子コンクール世界大会ジュニア部門（ブラジル開催）でも優勝し、今注目のパティシエです。

チャレンジクッキングも、毎月第2土曜日です。さあどんなお菓子が登場するか、お楽しみに。

中学生になったらジュニアリポーター

こども記者をこの春、卒業して中学1年生になるみなさん。信濃毎日新聞は中学・高校生のみなさんに記者として活躍してもらう「信毎ジュニアリポーター」という取り組みを進めています。

最近では、昨年12月、松本市あがたの森文化会館でフォトジャーナリスト安田菜津紀さん(27)が講師の「中高生写真教室」を開きました。安田さんは、高校時代にカンボジアの貧しい地域を訪れたのをきっかけに発展途上国の取材を続けています。東日本大震災の被災地でも取材しています。

参加したジュニアリポーター17人は、ニコンの協力で一眼レフカメラを使って撮影。また、安田さんから途上国や被災地のことを聞きました。ジュニアリポーターの書いた記事や撮影した写真は、ミニ新聞「ジュニアリポーター通信」に掲載されています。ジュニアリポーター通信は、信毎HPのNIE特集（http://www8.shinmai.co.jp/nie）から無料でダウンロードできます。

興味を持った人はぜひ、ジュニアリポーターに登録してみてください。住所、電話番号、氏名、保護者名、メールアドレスを明記し、信毎地域活動部ジュニアリポーター係へ、メール（t-chiiki@shinmai.co.jp）か、ファクス（026-236-3193）、はがき（〒380-8546　長野市南県町657）で。取材活動が企画されるたびに、案内状をお送りします。

みなさんのご参加をお待ちしています！

すてきな出会いを大切に

地域活動部　阿部貴徳

4月1日から編集局の文化部に行くことになりました。新聞の真ん中の方にある「くらし面」などのページを担当する部署です。

地域活動部には4年間いて、主に中学・高校生や大学生向けの「ステップ！青春のページ」を担当しました。

もちろん、中高生向けの仕事ばかりでなく、お正月や夏休みの特集では、こども記者のいろいろな取材活動を企画し、みなさんがスムーズに取材できるようにお手伝いしました。戦争のこと、県歌「信濃の国」のこと、技能五輪に出場した選手のこと、高校生の戦隊ヒーロー「テックレンジャー」、江戸時代の旅…。どの取材も深く心に残っています。

こども記者を経て中学生になり、ジュニアリポーターとして取材に参加してくれた人もいて、とてもうれしかったです。

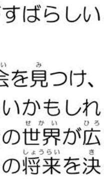
こども記者のみなさんは、これからいろいろなことに挑戦し、大人になっていくと思いますが、どんな時に「がんばろう！」ってやる気が出ますか。

きっかけはいろいろだと思いますが、勉強でもスポーツでも、人間のやる気のスイッチが入るのは、何といっても出会いではないかと思います。すてきな大人に出会って、「あの人みたいになりたいな」と思ったり、自分のやっていることをほめてくれる大人に出会ったり…。本や映画、コンサートなどとの出会いも、やる気のスイッチが入るきっかけになるかもしれません。

こども取材教室には、小学生のみんなが、さまざまな分野でがんばる大人と出会えるようにという願いも込めています。

取材教室に来て、教えてくれる大人たちはみんな、いそがしい中、協力してくれますが、こども記者が熱心に取材する姿を見て、ほとんどが「協力してよかった」と言ってくれます。毎回毎回がすばらしい出会いだと思います。

みなさんは、これからもさまざまな機会を見つけ、いろいろな大人に話を聞いてみるのもいいかもしれません。勇気を持って質問すると、自分の世界が広がっていきます。ひょっとして、みんなの将来を決めるような運命的な出会いがあるかもしれませんよ。



私が4月から行く文化部は、地域活動部とは親せきのような部署です。きっとどこかでまた、こども記者のみんなと会うこともあるかと思います。そのときを楽しみにしています。